



令和4年度報告

青少年赤十字新聞 第18号 やまぐち版 令和5年3月発行

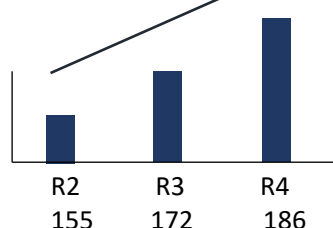
JRC加盟園・校 概況

令和4年度 県内加盟**186**園・校 令和5年3月1日現在

新しく、**20**園・校が加盟しました！

山口みなみこども園、山口中央幼稚園、もみじ幼稚園、
周陽小学校、阿知須小学校、富海小・中学校、
向島小学校、中関小学校、華城小学校、小野小学校、
大道小学校、赤崎小学校、小野田小学校、
厚保小学校、於福小学校、名陵小学校、秋穂中学校、
竜王中学校、下関工科高等学校（3園17校）

仲間が増えています！



（右）山陽小野田市立竜王中学校長

[全国加盟数] 1万4,441校 / 349万2,653人 令和4年3月末現在

○幼稚園・保育所	1,784園・所	○小学校	7,076校	○中学校	3,495校
○高校	1,772校	○特別支援学校	203校	○その他	111校

JRC助成金活用

58園・校、3,551名、に856,000円助成しました

もっと活用してください！

お泊り保育……………	1件	野外体験学習……………	1件
宿泊活動……………	28件	他校と合同の野外体験学習…	1件
他校と合同の宿泊活動………	2件	緑化活動……………	3件
清掃活動……………	10件	地域学習……………	2件
自然教室……………	3件	防災学習……………	1件



[内訳] 幼稚園3園、小学校51校、中学校3校、高校1校 [参考] コロナ前は80園・校以上から申請があり助成しました。

他にも、こんな活用ができます！

- ✓ 保健委員（JRC委員）が校内で健康や安全を呼びかけるリーダーになる。→ 絵図や画用紙の購入費など
- ✓ 生徒会（JRCメンバー）が校内や地域の防災リーダーになる。→ グッズの購入、マップの作製費など
- ✓ 国際理解・親善のための活動に、外部講師を依頼する。→ 講師派遣費用など

助成要項はコチラから →



<活用例①>

12月20日（火）、光市立室積小学校では、4年生児童の総合的な学習の時間において「室積防災ミッション」を実施。災害の前触れ、避難のときの服装、防災グッズなどを学んだり、調べたことを3年生児童に発表しました。助成金でマルチレスキューラジオを整備されました。



<活用例②>

8月20日と11月17日に、萩市立旭中学校では、「クリーン作成」と名付け、校区内の小学生児童と地域の婦人会（赤十字奉仕団）と協同で、保育園での除草作業、地域住民が集う施設のトイレ清掃や施設内の清掃活動などを行いました。



<活用例③>

下関市の宇賀小と小串小は、毎年合同でJRC活動に取り組んでおり、今年度は9月7日～2泊3日で合同トレセンを実施しました。いつもと違う仲間、環境下で新たな発見や周囲の人々のニーズに気づき、その気づきに対して十分に考え、実行する力を養いました。



1 各校の取り組み

各園・校の実情に応じて、赤十字の精神やJRCの実践目標、態度目標を取り入れて、様々な活動をしています。

(1) 加盟登録式

8月25日（木）、2学期の始業式において、防府市立中関小学校が全校児童を対象に、JRCメンバー意識付けのための加盟登録式を実施されました。冒頭10分の「赤十字について」の講話には、賛助奉仕団からスタッフを派遣しました。登録式の内容に決まりはありませんが、中関小学校の例をご紹介します。



①赤十字の起こり、JRCについての話しを聞く。（この日は放送室から赤十字ボランティアがお話しました。）



②校長先生から代表児童にJRCワッペンを渡す。



③代表児童から決意表明「私の今年の目標は○○です」



山口県日赤紺綬有功会（※）から、加盟登録式などに活用できるDVDを寄贈いただきました！

幼稚園には絵本を、中学・高校には、国際人道法DVDとテキストのセットを寄贈いただきました。

「赤十字」と「青少年赤十字」

45秒



赤十字をつくった人「アンリー・デュナン」

2分10秒



青少年赤十字のはじまり

41秒



加盟登録式で活用できるパワーポイント資料をご提供します。自由に、修正・加筆し利用ください。



HP: 日赤山口→青少年赤十字→青少年赤十字加盟登録式

JRCのあいことは「気づき 考え 実行する」

- ①まず問題に気づかなければ、
→ 困っている人に手を差し伸べられません。
- ②次に、何をすれば良いか考えないと、
→ その人は救えません。
- ③そして、
→ 行動に移さなければ、意味がありません。



私たちはJRCを応援しています！

（※）山口県日赤紺綬有功会とは？

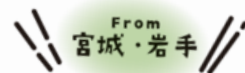
紺綬褒章及び日赤有功章を授与された、山口県支部寄付者の任意団体です。現在の会長は澤田健規氏（澤田建設株式会社）。澤田会長はご自身がJRCメンバーだったことから、現在もJRCへの深いご理解をお持ちです。「JRCの考えは大人になっても有用」とのお考えから、ご自身の会社では、社員教育にJRCの考えを取り入れておられます。紺綬有功会を通じて、山口県のJRC育成に大きな力を貸してくださっています。

(2) 東日本大震災語り部 L I V E

日赤宮城県支部の主催により、今年度も1月～3月に、被災者の体験をオンラインにより全国の小・中・高校に配信。全国から64校5,784名が、県内からは、平生町立佐賀小学校、防府市立中関小学校、徳山商工高校、3校から167名が参加しました。佐賀小4年生児童は、「やっぱり日頃の避難訓練は大事だと気づいた。災害が起こった時のために備えをしようと家族に伝えたい。」「語り部さんが行っていた学校に行ってみたいです。次の災害はだれもなくならないようにしたいからです。」と感想を述べました。

毎年12月から参加校を募集しますので、ぜひ奮ってご参加ください。

語り部LIVE行事 紹介映像（5分）→



【講話内容（一例）】

- ・命ってなんだろう？ ・小・中学生にできること、やるべきこと ・今、自分にできること
- ・社会人になる前に知っておきたいこと！ ・津波と原発事故の経験から未来へ など

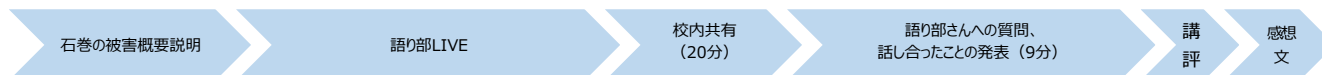


選べる2つのプログラム

[30分] 授業に取り入れやすいコンパクトな内容



[60分] 全国のJRCメンバーと繋がり、気づき・考えを深める内容



(3) 防災・減災への取り組み

1月13日（金）、山口中央高校の1・2年生を対象に実施した防災講習では、災害のリスクや命を守るための知識を伝え、後半は災害クロスロードゲームを行いました。ゲームでは、「避難所に自分の愛犬を連れて行くか？」など、様々な仮定の中で、自分の行動を決めます。災害時は特に立場や考えが違ふもの同士助け合い、寛容になることが大切であること、更に高校生として様々な状況において自分に何ができるか、気づき、考えをグループで話し合いました。

日赤では、他にも、小・中学生向けの大雨災害ワークショップの出前授業や、防災教材の提供なども行っています。

【ワークショップの一例】

1.目標

- ・自分のいのちを守ることを最優先する。
- ・大雨災害が予想されるときに、行動することを身に付ける。
- ・長く降り続ける雨や大雨の際には、河川は水位が上がり危険があることを知る。

2.概要

- (1) ニュース報道から大雨予報を知る (2) 家族でハザードマップを確認する
- (3) 非常用持ち出し袋を準備する →発表 (4) 状況が変化していくなかで行動計画を立てる、見直す →発表
- (5) 映像視聴（県内の1時間最大雨量の時の災害の様子、河川の急な水位の上昇の様子）
- (6) まとめ



【写真】山口中央高校防災講習の様子

(4) 教材や募金を通じて、奉仕を学ぶ

【写真左】12月20日（火）、旭幼稚園でJRCの新教材「やさしい心を育む教材」の活用がありました。園児は、どの動物の行動が「やさしい」かを見つけ、またどうしてその行動が「やさしい」と思うのか自分の考えを友達に伝えました。

【写真右】12月13日（火）、野田幼稚園児が海外たすけあい募金の寄託に日赤県支部に来局しました。園内で協力して募金活動を行い、困っている人のために役に立ちたい気持ちを、行動に移しました。寄託式では歌も披露されました。



日赤の防災教材

「まもるいのちひろめるぼうさい」

活用方法を映像でカンタンに！
全国の授業の様子を7分で紹介

小学 中学 高校



2 県支部主催の行事

(1) トレセン（リーダーシップ・トレーニング・センター）

青少年赤十字活動の中核となる児童・生徒のリーダーを養成する目的で、例年夏休みに開催しています。今年度は小学校で3年ぶりに宿泊、また中学・高校は、オンラインと日帰り参集の組み合わせにより実施しました。参加した児童・生徒の皆さんは、一人一人がそれぞれの役割で発揮できるリーダーシップの取り方を学びました。

小学校 8月3日・4日

場 所：下関ユースホステル

人 数：4校・18名

指導者：10名

内 容：指示のない生活、ホームルームを軸とした各種グループワーク、フィールドワーク など

感 想：

- ・トレセンで学んだことは、すぐに先生にたよらないで、三つのことをします。気づき、考え、実こうするという三つのことを、これからの生活に生かしていきたいです。
- ・自分はいままでかよくみていないことがわかって、これからまわりにはられている紙や人の話をよく聞きよく見るようにしようと思いました。
- ・このトレセンで学んだことは、一歩ふみ出す勇気です。
- ・始め心配でしたが、みんなが個性を出せていて、私はとても安心しました。人みしりと言っていた人でもおもしろく自分の個性を出せていた。



中学校 8月10日・11日

場 所：県セミナーパーク

人 数：6校・22名

指導者：12名

内 容：第1日目はオンラインにより各校活動紹介やグループワーク、第二日目はフィールドワーク など

感 想：

- ・結構初対面の人には本音が言えないことが多かったのですが、トレセンでは声かけは積極的にでき、自分の意見をはっきり言えるようになったかなと思います。
- ・人と話をするのが楽しくなりました。
- ・オンラインで話した相手と会うのは正直嫌だなと思っていたけど、野外活動はそんな僕を変えるためかと思ったほど、他校との関わりが楽しかった。
- ・少し自分のことより相手を意識できるようになり、視野が少し広がったと思いました。



高等学校 8月8日・10日

場 所：KDDI維新ホール

人 数：13校・38名

指導者：11名

内 容：第1日目はオンラインによりJRCについての学習。第二日目は、グループワークや救急法、ボッチャ体験。発表など。

感 想：

- ・周りを見て、自分は何をすべきか考え、行動することが以前よりできるようになった。
- ・不安が全くなくなるほど楽しかった。



高校トレセンから選抜された2名は、3月に東京本社で開催される全国研修会に参加します！

県代表者：山口県立西京高等学校 2年 小下奈々さん、山口県立長府高等学校 2年 沖村桃香さん

[指導者の感想]

- ・他校の生徒とボランティア活動の取り組む方法や姿勢などを学び合い、高め合うことができた。
- ・自分自身の研修になった。JRCの手法から学校教育で使えるものがたくさんあった。

(2) 教員対象の研修会

開催日：令和5年1月27日（金）13時～16時

形 式：オンライン（Zoomを使用）、分科会3のみ参集

参加者：121名

内 容：

①講演「学校教育と青少年赤十字」

日本赤十字社本社 青少年・ボランティア課 課長 藤枝 大輔

②校種別分科会

分科会1-[幼・小・中学校]

●各校の活動事例、トレセン指導報告

- ・藤村学園旭幼稚園 教諭 叶谷 裕（代読：賛助奉仕団 有馬委員長）
- ・下関市立関西小学校 教諭 平野 晶子
- ・山口市立湯田小学校 教諭 田畑 大樹
- ・下松市立下松小学校 養護教諭 小林 良子
- ・下関市立養治小学校 教諭 福田 真也
- ・山口市立大殿中学校 校長 鶴永 幸彦

分科会2-[高校]

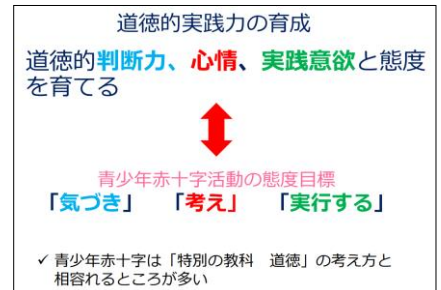
●各校の活動発表、高校協議会、トレセンについて

- ・山口県立華陵高等学校 校長 清木 伸幸
- ・山口県立下関南高等学校 教諭 蒼下 和敬
- ・山口県立長府高等学校 教諭 藤本由紀
- ・山口県立徳山商工高等学校 教諭 堀本 美絵

分科会3-[参集型体験ワークショップ]

●大雨防災ワークショップ体験

●救急法講習体験



【資料】日赤本社 藤枝課長



【資料】下関市立関西小学校 平野教諭

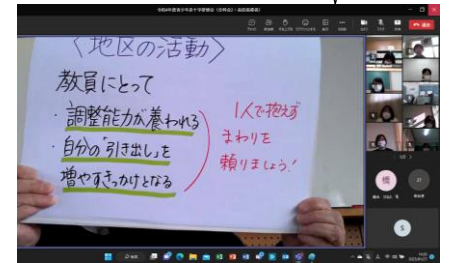


【資料】下松市立下松小学校 小林教諭

（高校協議会地区行事は、）教員にとって、

・調整能力が養われる ・自分の「引き出し」を増やすきっかけとなる

一人で抱えずまわり（JRC指導者）を頼りましょう！ 【資料】長府高校 藤本教諭



【写真左、中央】分科会3の様子。児童・生徒になったつもりで防災ワークショップを受講し、後半は心肺蘇生法と包帯法を体験しました。

[参加教員の感想]

- ・他校の取り組みが参考になった。学校教育目標とJRCが目指す目標がリンクしているので、既存の活動を、気づく、考える、行動するに結び付けて考えると良いと思いました。
- ・新たな取り組みではなく、現在の取り組みを価値付けて行うこと、参考になりました。教育課程の位置づけを検討します。
- ・赤十字と道徳教育は重なる部分が多いのは発見でした。
- ・総合の中で使える手立てがたくさんありました。
- ・委員会などの活動に組み入れていきたいと思った。
- ・トレセンが子供たちの成長や若い教員の人材育成にもつながると実感した。
- ・講習や出前授業ができることが分かったので、来年度ぜひ活用したい。
- ・具体的活動例の紹介だけでなく、指導者としての心構えなどが学べて、指導歴の短い教員にとって非常に参考になった。
- ・防災について、子どもの立場を経験する機会ではなかったので、貴重な機会となりました。



当日の研修会の資料ダウンロード、また映像をPCやスマホからご視聴できます。
パスワードをお伝えしますので、日赤県支部へお問合せください。

(3) 高校生メンバー対象のオンラインセミナー

コロナ禍により活動が思うようにできないとの意見を受け、高校生メンバーを対象にオンラインセミナーを実施。講義やグループワーク、意見交換などを行い、延べ543名が参加しました。

開催月	内 容	講 師	参加人数
4月	JRCについて、赤十字について	日赤支部職員	62名
5月	新メンバー研修会	日赤支部職員	133名
6月	気候変動	大学教員	80名
7月	フードバンクの取り組みを知ろう	フードバンク山口理事長	57名
10月	献血について	赤十字血液センター職員	29名
11月	最新の韓国情報！	大学生および韓国人留学生	53名
12月	国際人道法 ウクライナ人道危機	日赤本社国際救援課職員	51名
1月	ジェンダーについて	赤十字ボランティア（LGBTQ公表者）	78名

3 日赤本社主催の全国行事

(1) 国際交流集会 JRC/RCY International Meeting

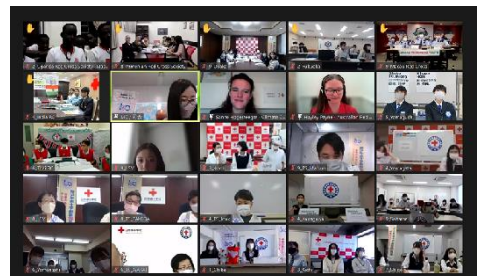
今年のテーマは「気候変動」。日本からは29県から220名のJRC高校生メンバーが、世界24の赤十字・赤新月社からは238名のユースメンバー参加しました。

山口県からは、高川学園高校から2名、聖光高校から2名が参加し、青森県、岩手県、熊本県、沖縄県、アルメニア、ブータン、カンボジア赤十字社などと同じグループで、各国での実情や課題などを英語で意見交換し、気候変動について知識を深め交流を行いました。

【第一部】 10月2日（日） 高川学園高等学校 2名

【第二部】 11月5日（土）・6日（日） 聖光高等学校 2名

- 内容：
- ・日本赤十字社ルワンダ駐在主席代表者の講義
 - ・福島県立平工業高等学校による校内の節電活動の発表
 - ・赤十字気候センターオランダ職員による講義
 - ・グループワーク、課題の取り組み、意見交換、発表 など



第一部参加の高川学園
身近な環境問題を発表しました。



第二部参加の聖光高校

初日は各国のメンバーと気候変動について学び、翌日はフィジーと、二か国間の交流を行いました。写真は浴衣を着てツナマヨおむすびを作り、紹介している様子。



(2) スタディー・プログラム

例年、山中湖村東照館において4泊5日で実施する「スタディー・センター」は、コロナ禍では「スタディー・プログラム」に名称を変え、オンラインで実施しています。今年度は、3月に、第一日目をオンラインで、第二日目を東京本社に参集で開催する予定です。当県からは、県トレセンで選出された西京高校と長府高校から1名ずつと指導者1名、計3名が参加します。

4 賛助奉仕団の紹介

JRCの普及や、加盟促進、活動支援を目的に、教員OBで構成する「山口県青少年赤十字賛助奉仕団」という赤十字ボランティアグループがあります。42名の団員が所属し、幅広くJRCを支援する活動をしています。派遣を希望される場合は、県支部までご連絡ください。

わたしたちは、

- ✓ 元JRC指導者です
- ✓ 元トレセン指導者です
- ✓ 国語、数学、理科、社会、商業、美術、音楽の教員です。

こんな活動をしています（多忙な先生方をフォローします）

- ✓ JRC加盟登録式において、赤十字やJRCに関する講話
- ✓ 新型コロナウイルス感染症に係る人権講演
- ✓ 高校JRC部での出前講座
- ✓ 加盟促進のための学校や校長会の訪問
- ✓ その他、私たちの特技を生かした支援をします！



私たちの得意分野を活かします！

【団員募集中！】現役教員および、退職者の**新規入団**をお待ちしています。年会費1,000円。総会年1回。無理なく続けることができるよう、団員同士サポートします。未来をつなぐJRCメンバーの育成に、どうぞ力を貸してください。



5 広報協力をお願い



青少年赤十字を含む県支部全ての事業は、県民の皆様からの善意の寄付金を財源に行っています。

よって事業を継続するためには、寄付に協力される県民の理解が欠かせません。各校でのJRC活動を、広く地域住民に周知していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

【協力方法例】

- ・赤十字活動中は、可能な範囲で**JRC旗**や**JRCバッジ**を活用
- ・学校が作成する**ホームページ**や**学校だより**などに、JRC活動を報告
- ・日赤が活用できる**写真**があれば、写真データを提供ください。

6 日赤県支部JRC担当者から

JRCは学校の役に立つ活動を行いたいと考えています。

- ✓ こんな防災講習があつたらいいな
- ✓ こんな出前授業をして欲しい！（健康・安全、奉仕、国際理解・親善）
- ✓ 地域のJRC加盟園・校同士で繋がりをもちたい
- ✓ 赤十字ボランティア（婦人会、防災、アマチュア無線）と交流したい

コロナ前と比べて、指導員・講師派遣依頼が減っています。JRCを活用ください。

- ✓ 救急法講習（心肺蘇生法、災害時を想定した傷の手当 など）
- ✓ 防災講習（炊き出し、ロープワーク、ワークショップ など）



ご意見やご要望を、いつでも日赤県支部へお寄せください。



できたら嬉しい！ 充実感



青少年赤十字創設100周年記念 活動奨励金交付事業 活動報告

4校から申請があり、4校に交付しました。



1. 下松市立下松小学校 「地域で守る命」をテーマにした防災、減災活動

■ 特色

4年生の総合的な学習の時間で、地域との関わりの中で、防災・減災について学びました。事前のJRC学習で「命を守ることが最優先であること」、また「お互いに助け合うことの大切さ」を知り、防災デーには、地域の防災士や行政職員、日赤職員など幅広く集め、様々な体験学習を実施されました。



2. 山口市立湯田小学校 年間を通じた様々な活動

■ 特色

年次計画的にJRCの育成に取り組んでいます。JRC委員会を中心メンバーとし、彼らが校内のJRCリーダーとなり、他の児童に、湯田小が目指すJRCとは何かを伝え、行動を促しています。自覚を持たせるための加盟登録式、地域でのVS活動、環境保全や高齢者に対する取り組み、防災など様々な学校活動にJRCの考えを加えています。



3. 山口県立華陵高等学校 全校生徒で取り組むJRC活動

■ 特色

全国でも珍しく全校生徒が加盟する高校です。開校以来JRCを取り入れ、生徒会の中にJRC部会を設置しています。学校が目指す国際性とJRCの特色を上手にリンクしていること、VS活動は全校生徒で取り組み、全員がVSの意味や目的を理解し行動しています。文化祭での取り組みや防災の取り組みなどに奨励金を活用されました。



4. 山口県立下関南高等学校 年間を通じた様々なJRC活動

■ 特色

県内高校JRC部の中でも部員数が多く、活動も生徒の自主性を大切にしているばかりです。生徒らの気づきや考えから発展させた新しい活動を多種多様に、精力的に、かつ楽しく取り組んでいます。貸し切りバスをチャーターした県内ごみ拾い遠征、校内に60年前に植樹されたJRCシンボルツリーから種の採取・発芽、地元のマラソン大会の運営ボランティア、他部活動のお世話など個性的な活動が多くあります。



学研 まんがでよくわかる「〇〇のひみつ」 シリーズ189に、JRCが登場しました！

「まんがでよくわかるシリーズ・まんがひみつ文庫」は子どもたちが疑問に思っていることや、知りたいことをまんがで分かりやすく紹介する書籍です。JRC創設100周年を記念し、この度、全国の小学校の図書室や公立図書館・児童館に整備しました。赤十字の成り立ちやJRCのことがこの1冊に集約されています。



はじめに 赤い十字は何のマーク？

- 第1章 赤十字って何？
- 第2章 赤十字の父 アンリー・デュナン
- 第3章 青少年赤十字って何？
- 第4章 青少年赤十字はどんな活動をしているの？
- 第5章 青少年赤十字に参加しよう！

コラム ノーベル平和賞を受賞したアンリー・デュナン

コラム ボランティアとは？

コラム わたしにできること

コラム 障がいのある人との接し方

コラム 青少年赤十字のトレセン



デジタル版はコチラから